

# 千年の森便り No.204

2020.7.25

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

[sennennomori@hotmail.co.jp](mailto:sennennomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

7月19日(月) 晴

定例活動が出来るかどうか怪しい天気予報でしたが、結果的に雨には降られなくて、適度な風で蒸し暑さも和らぎ、照度調査など予定の作業は全て出来ました。

但し、台風被害の倒木や折れ枝の処理はまだまだ片付かず、引き続きの作業が必要です。

島から帰る時、「アー今日はよく働いた」と何方かが満足気につぶやく声が聞こえました。吊り橋の上空には久し振りに見る青空に白い雲が輝いていました。



千年の森もソーシャルディスタンス



青空に白い雲が輝いて



今日はよく働いた！とつぶやいて

参加者は秋元、新井通子、伊藤、鶴沢、及川、大原、苅米、坂本、中田真也子、福島、松山、の11名でした。(坂本)

## ○相対照度調査

天気予報では大雨が心配されましたが、急速に天気が回復し、予定どおり調査を行うことができました。雲の動きが早く、時々日が射す状況となり、照度が安定せず相対照度調査には難しい条件でした。



相対照度測定機材一式



コナラ伐採地の相対照度調査

調査は、10:20~10:50、相対照度の測定には、照度計8台、トランシーバ4台を使用し、調査人員は全員参加の11名です。測定箇所は、コナラ伐採地が20地点(A-1~D-5)と、千年広場、コナラ更新林の苗畑とヒメコマツ植栽地、岬のヒメコマツ植栽地の計24地点です。相対照度は、開けた場所(橋の上)の照度を100%とした時の、各地点の照度の比率(%)であり、トランシーバで連絡を取り合いながら、各地点で同時に照度を測定しました。なお、相対照度はバラツキが大きいので、各地点で5回の測定を行い、その平均値を各地点の相対照度としました。

表1にコナラ伐採地における各測定点の相対照度を、表2にコナラ伐採地(20地点の平均値)を含めた全測定箇所の相対照度の変化を示しました。コナラ伐採地の相対照度は、最大が49.5%、最小が1.8%、平均が21.8%でした。測定点ごとに見ると、A1~A5がやや低く、これは、植生の繁茂による影響と考えられます。また、表2の経年変化を見ると、2箇所のヒメコマツの植栽場所は30%以上と比較的高い値でしたが、千年広場、苗畑、コナラ伐採地は23%以下とやや低い値でした。(福島)

表1 コナラ伐採地の相対照度 (%) (2020.7.19)

	1	2	3	4	5
A	9.2	12.2	1.8	8.5	27.5
B	48.2	15.2	20.2	16.3	34.4
C	32.3	12.4	49.5	10.4	12.3
D	18.8	24.2	28.8	35.5	18.2

表2 島内5地点の着葉期の相対照度の変化

測定箇所	相対照度 (%)							
	2014.7.21	2015.8.30	2016.8.21	2017.9.18	2018.7.16	2019.7.21	2020.7.19	
千年広場中央		19.3	29.7	26.8	33.9	21.1	14.1	22.9
コナラ更新林の苗畑		22.2	8.8	5.7	22.4	13.0	-	12.6
コナラ更新林ヒメコマツ		35.7	43.1	48.5	47.1	41.6	28.8	36.0
岬ヒメコマツ		27.7	33.1	28.3	30.7	37.6	40.8	32.5
コナラ伐採地		64.5	41.9	38.0	45.7	30.7	27.9	21.8

コナラ伐採地は、2015年8月以降20地点の平均値

## ○夏の植物たち

新型コロナウイルス感染拡大防止ため新しい生活様式が求められている中、植物班の会員が十分に活動できない状況が続いています。早く全員が参加できることを願っています。今回は新井さん、中田さんの参加もあり植物班らしい活動ができたように思います。(秋元)

### ・ツチアケビ

千年広場南側の6株のうち4株が結実しました。上部が黒く変色した1株と高さが30cm程度の小さな1株は結実しませんでした。吊橋終端西側の1株はネットの内空高が足りなくて、変形はしましたが結実しました。この段階で食害防止の金網の役目は終わりましたので脇に外しました。

### ・千年広場のベンチ脇の黄色のサジガンクビソウ



ツチアケビ



ヒメヤブラン



サジガンクビソウ



アキノタムラソウ



トサノクロムヨウラン



ヤマユリ



オケラ



クサアジサイ

- ・ギャップ林保護柵内の淡紫色した可愛いヒメヤブラン、四月に咲き今月も咲いた鮮やかな黄色のヤマブキ、青紫色のアキノタムラソウ、赤い点の入った白色のヤマユリ、緑色したネットのオケラ、黄緑色のオオバノトンボソウ
- ・禁断の岬付近の北側崖の湿った壁に張り付いた薄紅色のクサアジサイ
- ・淡褐色で淡紫色を帯びた唇弁をもつトサノクロムヨウラン

○野鳥の記録：入島時に渡る吊橋の主ケーブルの周辺を二羽のキセキレイが飛び回っていました。  
島の北側でカケスを確認しました。

○ヘビの記録：アオダイショウ、ニホンマムシ各1を確認しました。

### 久しぶりの参加でまた沢山の学び！

「千年の森をつくる会」に久しぶりに参加することができました。

午前中は森の照度調査。定点観測に何年か参加しているだけで、森に差し込む光がどんどんかわっていくのが分かって勉強になります。その後は森の中の散策。森の中はキノコが沢山！大きなアカヤマドリ、綺麗なコガネキクバナイグチなど、久しぶりに豊英島らしいキノコに出会えて嬉しかったです。



カブラテングタケ



アンズタケ



アカヤマドリ



キンメジ科



イボタケ属



コガネキクバナイグチ



ヘビキノコモドキ

午後は、植生保護柵内の植生の手入れをお手伝いしました。

昨年後半、この柵が兔に破られ、一部かなり食害にあったのですが、固い網を外側に半分地面に這うようにL字型に張り、さらに網の外端に重い丸太を置いたところ、見事に兔の侵入をストップできたとのこと。結果として、柵内は、たった数カ月でどこもものすごい量の植物が成長し、人も歩けないほど。棘の植物も多くて大変・・・(;^\_^A でも植物に直に触れることができる楽しい作業でした。

一方柵の外は、地面が見えるくらいスッキリ。歩くのもラクラク・・・これって、シカなどの動物が下草を食べたせい・・・？動物の食害の影響の大きさを改めて感じました。

なかなか参加できませんが、千年の森をつくる会では色々な勉強をさせていただいています。（中田真也子）

## ○マダニ調査

ちょうど1年ぶりの活動になりました。天気も良く今回もマダニが採れました。マダニ調査の詳細な結果は、後ほどご報告させていただきます。というのも、私は7月上旬から“原稿を書いている今”まで鴨川市の山奥に滞在しており、大学へ戻って顕微鏡でマダニを見ないと種類も写真も撮影できない状況だからです（すみません…）。

今回は本業のマダニ採取より、生まれて初めてチェーンソーを使ったことがとても印象的でした。その節はありがとうございました。

次回のマダニ調査は10月を予定しております。よろしくお願いいたします。（松山）



1年ぶりのマダニ採集

## ○ギャップ更新林保護柵内の整備

保護柵内に木本類が繁茂し草本類を淘汰し始め、草本類が見られなくなる可能性が出てきていました。今後の観察活動をどう展開していくのかは未定ですがとりあえず、草本類のエリア確保のために木本類とのエリア分けをすることにしました。北側のA・B区画は木本類エリアとし、南側のC・D区画を草本類のエリアとして伐開作業を行いました。

伐採作業は坂本さんが刈払機を巧みに操り直径の太い木も簡単に切っていました。切られた灌木の山を新井さん、中田さんがきれいに片づけました。私は灌木の少ないD区画のネット付近でアセビ等を剪定ばさみで除去しました。（秋元）



柵の裾の手入れ

## ○ヒメコマツ植栽地の下刈り

セブン-イレブン記念財団の助成を受けて購入した新品の刈払機での初仕事でした。

軽量でかなりコンパクトな機材だったので、性能は如何なものかと思いましたが、エンジン始動もスムーズで、小気味良い切れ味でした。ススキ等の固い草は勿論、樹木でも親指の太さであれば難なく切れました。調子に乗ってもっと太い木に挑戦して負荷の掛け過ぎによる故障の無いよう大切に扱いたいと思います。

下刈りと言えば昭和30年代には豊英島のある君津市の山間部でも植林が盛んで、夏場の下刈り要員が不足していたのでしょう。当時、中高生だった私も夏休みのアルバイトに駆り出されて小遣い稼ぎをしました。道具は柄の長い大鎌でしたから、炎天下に一日中振り回すのは本当に辛い仕事でした。大量の汗が浸みこんだシャツは乾くと塩の結晶が浮き出て白くなっていたのを思い出します。それに比べれば刈払機の作業は楽で、能率は大鎌での手作業の何倍も上がると思います。

今回のヒメコマツ植栽地であれば手作業で数時間かかるとされる面積でも僅か30分で済みました。刈払機よありがとう、助成金に感謝々々です。（坂本）



## ○植生保護柵の補修

島内各地に設置した植生保護柵は、昨年の台風15号の倒木等により大きな被害を受けました。

それらは一旦補修しましたが、被災後時間がたってからの倒木、落下枝などの影響で支柱が折れ曲がるなどあちこちが傷み、シカの侵入を許して柵内の植生が著しい被害を受けた場所もありました。活動を再開した先月と今月ですべての植生保護柵を再確認し、必要な補修を行いました。（鶴沢）



植生保護柵の補修

## ○台風被害木の処理



倒木の玉切り



滑車を使って倒木処理



閉鎖されていた歩道開通

昨年の台風被害木の処理については、いまだに終わりが見えません。理由は2つあって、一つは中折れした大径木の処理などは非常に危険で、慎重にも慎重に取り組まざるを得ないことです。特にヤマザクラ、コナラなど何本もの大径木が折り重なって倒れ、互いにもたれ掛かっている島中央部の被害は、チルホールをダブルにして、少しずつ動かして安全を確保できた部分から玉切りする手法しかとれません。苅米さんをもってしても、もう1, 2回かかるとのことでした。

もう一つの理由は、新たな枝折れ、幹折れが多数発生していることです。こちらは、台風で傷んだ部分がその後の風雨で耐えられなくなって折れたり、倒れたりしたものとされます。一度補修した食害防止ネットが太い枝の落下で再被災したり、前回なかった倒木が歩道をふさいでいたりしています。こちらは、今回だいぶ片付けましたが、8月のきのご観察会に向けて、安全確保のための臨時活動日が必要な状況です。(伊藤)

## ○資機材の購入

一般財団法人セブン・イレブン記念財団の助成金をうけ、チェーンソー1、刈払い機2、プロテクティブズボン2を購入しました。早速今回の活動から、伐採や下刈りに大活躍です。高性能で操作性もよいことから、作業の効率のみならず安全の確保に大きく貢献しています。(伊藤)

## お知らせ

次回は8月16日(日) 野生きのご観察会です。今年は新型コロナウイルス対策のため、例年のような公開行事とはしません。野生きのこに詳しい会員を中心に、気楽な研修会となります。豊英島に足が遠のいている会員の方はこの機会にぜひご参加ください。

会員以外の参加者は、原則として会員家族に限定します。集合場所は、清和自然休養村(直売場) 9時30分集合です。

豊英島は落枝の危険性が高いので、きのご観察と言えどもヘルメットの着用をお忘れなく。「森の中ではヘルメット」です。(事務局)